



「隣人愛」に基づく SSH

すべての科学技術や人間の活動はキリスト教信仰の「隣人愛」に基づき、世界の人々環境に深く配慮されたものでなければならないと考えます。

今回は甲州市にお住まいの野草研究家鶴岡舞子先生の「野草活用に着目した環境コーディネーター」と題するSSH講演会を中心に、SSH Iの山梨大学生命環境学部の研究室を訪問した様子と、高校1年生が生物基礎の授業で行ったDNA抽出実験の様子をご紹介します

《第2回SSH特別講演会 6月10日》

講演テーマ「野草活用に着目した環境コーディネーター」
野草研究家 鶴岡舞子先生

今回は中学生から高校3年生まで全校生徒を対象に講演会が開かれました。先生は普段仕事をされている服装で登場なさり、お金が無くても生きていく仕事を模索し、15歳で農業を目指すようになったというお話から始まった講演に、生徒たちは引き込まれていきました。

野草はかつて救荒作物として食糧問題の解決策でもあったそうです。講演中には先生が持参なさった野草（カキオドリ、イタドリ）を試食する機会もありました。

科学の目で見ることにより野草を活かす知識・技術を身につけることができます。講演により“農”に関する新たな視野を拡げることができました。



＜生徒の感想＞

・耕作放棄地、空き屋問題を違う視点から若者に関心を持ってもらい、野草研究としての切り口から解決へと導いていくプロセスがすばらしいと思いました。

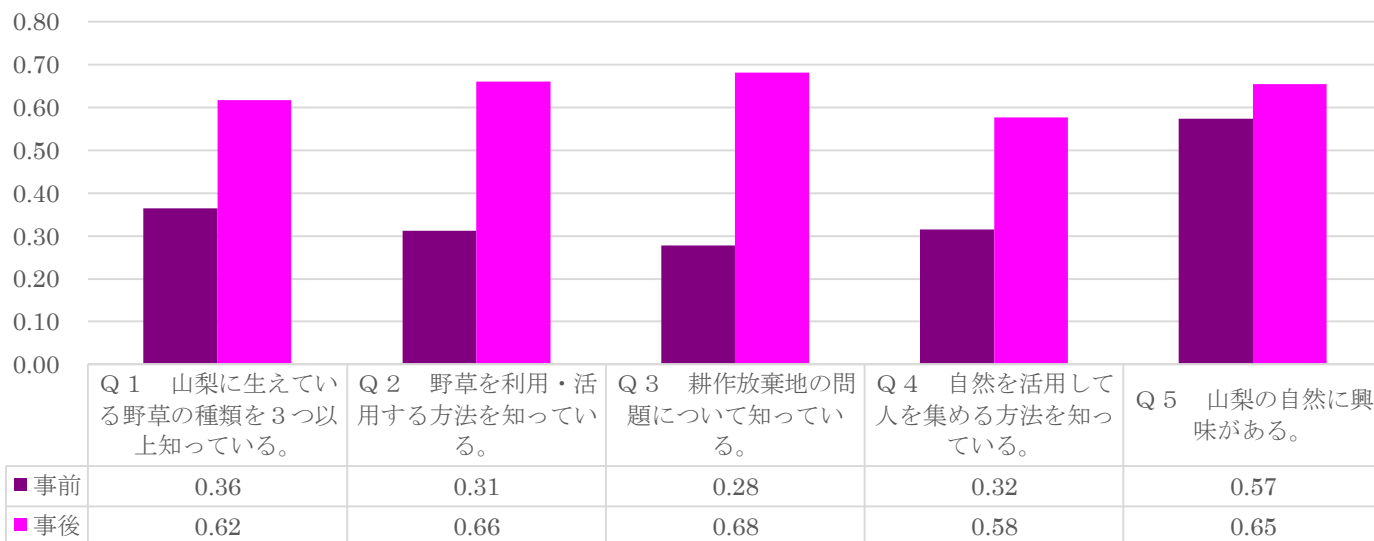
・理系女子という、研究室にこもって実験や観察をひたすらし、数学・理科ができて…とと思っていましたが、先生みたいに active で知識と知恵と発想をうまく使っていく理系女子もかっこいいなと思いました。

・自分の未来のを見つけ方や生きる課題などについても学ぶことが出来ました。

下記の事前事後アンケート結果が示す通り、環境資源である野草の利活用について知識を得、耕作放棄地の問題に理系の研究分野からアプローチできることもわかりました。



第2回SSH特別講演会事前事後アンケート



《山梨大学環境学部研究室を訪問しました》

6月9日、高校1年スーパーサイエンスクラスの生徒24名が山梨大学生命環境学部の研究室を訪問しました。生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科の研究室を1つずつ見学し、先生方から研究内容を説明していただきました。実際に電子顕微鏡を操作して画像を見たり、培地のおおいを嗅ぎながら酵母や放線菌を観察したり、自転車をこいで発電したりと、五感を使って大学の研究を体験することができました。

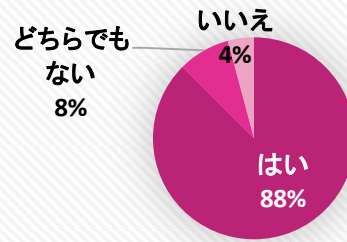
掲示されている日本語・英語のポスター、北杜市で発見された新種の放線菌 *hokutonensis* についての英語の論文などを見て、課題研究への動機づけとなりました。



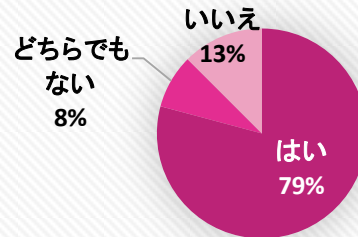
9割近くの生徒が「研究室訪問はSSH研究の役に立つと思う」に肯定的な回答をし、8割の生徒が「研究室訪問で環境分野に関心をもった」に肯定的な回答をしました。

将来どのように人の役に立ちたいかを考え、物事を根本まで追求してほしい、という言葉に、生き方のヒントを与えられ、進路について具体的に考えるきっかけにもなりました。

研究室見学はSSH研究の役に立ちますか。



研究室見学で環境分野に興味をもちましたか。



《高校1年生がDNA抽出実験をしました》

高1のSSH生物Iおよび生物基礎の授業で、ブロッコリーを用いたDNA抽出実験を行いました。いつも食べているブロッコリーにもDNAがあるとはあまり意識していない生徒達も、目の前にもやもやと繊維状のものがでてくると驚いて歓声があがっていました。オレンジジュースを使った実験でも、簡単にDNAの存在を確かめることができました。教科書で勉強した知識と、実際に実験しながら確認した手順や経験がつながり、とても充実した実験授業となりました。



次号は7/4に実施されるSSH Iの生徒たちの東京大学訪問の様子をお伝えします。

